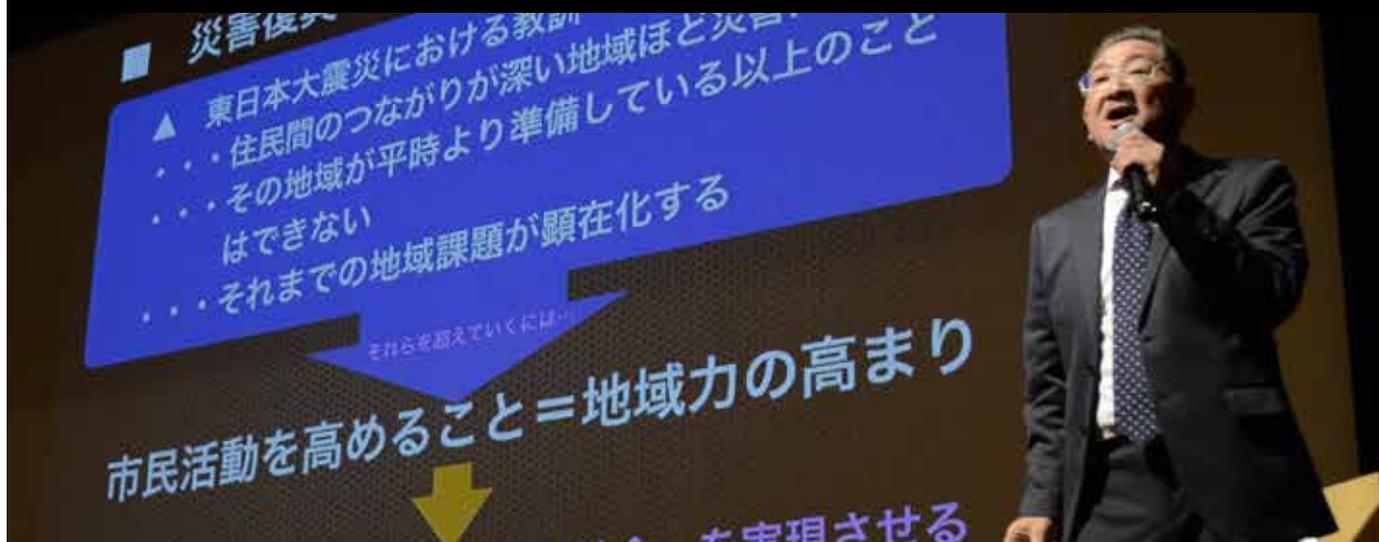


“自助・共助・公助”で災害を乗り越えるために

「新型コロナウイルス感染症が広がっている間は、自然災害が発生しない」ということはありません。どんな状況でも災害に対応できる力を身に付けるため、コロナ予防対策を講じながら、今年度も防災シンポジウムと地震津波総合避難訓練を開催しました。ご参加いただき、ありがとうございました。

問合せ先 危機管理課 ☎(275) 6247



令和2年10月20日開催「第9回 防災シンポジウム」

東日本大震災で未曾有の災害と感染症の流行という2つの“災い”と同時に向き合った福島大学の天野教授。今回は、当時の状況についてご講演いただいた内容を要約して紹介します。

“いのちを守るための交流”と“自治”

東日本大震災で、避難者3千人を収容した避難所「ビッグパレットふくしま」は、発災1か月後にノロウイルスの感染拡大で人が亡くなりかねない事態に陥りました。感染者が50人、100人と倍増する中、スタツフだけでは手に負えなくなつたため、私は居住環境を改善し、避難者自身で衛生環境を維持してもらうために手洗いや、うがいの徹底を促しました。

また、避難所の開設当初は、避難者同士の挨拶がない程、雰囲気は沈んだものでした。私は「避難者に寂しさを感じさせないこと」を支援の軸とし、阪神淡路大震災の際の避難所運営でも効果のあつた足湯やお茶飲み場などの交流の場を設けました。すると避難者に笑顔が生まれ、交流をきっかけに避難所内に「自治」が生まれました。



交流の場の提供と自治の促進が、孤独からのちを守ることにつながっていききました。

災害に強いまちとは、常に人と人がつながっているまち

「普段は、近所と親しくなくても、災害が発生したら一致団結して困難を乗り越えられる」ということは絶対ではありません。東日本大震災の経験から「普段準備している以上のことはできない」という教訓を得ました。

防災のために人がつながっているのではなく、普段からの人のつながりが、結果的に「防災に強いまち」を作ります。いのちは一人を守るものではなく、人と人のつながりで守るものなのです。

「地域でどう生きるか」がこれから問われる時代

これから災害を乗り越えるためには「地域でどう生きるか」を考えることが重要です。先ほど申し上げたように、住民間のつながりが深い地域ほど災害に強いまちと言えます。

自治会活動を通して、地区防災計画を作成するなど、「自らの地域を住みよい地域にする」ことに目を向けてみましょう。

令和2年11月5日開催「第10回高石市地震津波総合避難訓練」

コロナ禍における総合避難訓練の様子を紹介します。



今回の避難訓練は、人と人の間隔を空け、マスク着用で約7千人の方が参加しました。カモンたかいしと取石小学校では、手指の消毒や検温を徹底し、段ボール間仕切りや、避難者用テントで世帯区画と通路を整理した避難所を見学していただきました。

感染を防ぐための避難所のあり方を体験



初期消火訓練



取石小学校区においては、直下型地震により火災が多数発生したことを想定し、小型可搬ポンプを使用した初期消火訓練を実施しました。

個人で準備しておく防災グッズ



飲料水・食品・軍手・懐中電灯・衣類（下着含む）・毛布・ラジオ・電池・マッチ・ろうそく・常用薬など

【プラスして感染症に備えるもの】

ウェットティッシュ・マスク・消毒液・体温計・手袋など

さまざまな災害から市民の命を守るためのハード対策

大阪湾に面した本市では、直下型地震のほかに南海トラフ地震に伴う津波、台風による高潮、河川の氾濫による洪水など、様々な災害が想定され、それぞれ対策を進めています。また、臨海部の石油コンビナート区域においても、大阪府と企業は、地震や津波が発生した時の被害拡大防止策を順次進めています。



1 防潮堤耐震化・かさ上げ



市内の防潮堤を耐震化・かさ上げすることで津波、高潮から住宅地を守っています。

2 津波避難タワー整備



津波から一時的に避難する場所を確保しており、約 100 名の避難者の収容が可能です。

3 芦田川・王子川 水門・排水機場



河口の水門と排水機場が、高潮、津波による海水の流入を防ぎ、川の水を排出します。

8 高砂 1 号線液状化対策



主要道路の液状化対策を行うことで、臨海部の早期の避難と復旧を可能としました。



4 芦田川改修



河川の二層化、地下調整池によって、大雨に対応できる流量が大幅に改善しました。

7 学校体育館空調設置



市内の中学校は今年度、小学校は来年度中に体育館の空調取付が完了し、避難所環境の改善を行っています。

6 学校教育施設耐震化



生徒の安全確保及び教育活動等の早期再開と、災害発生時の地域住民の緊急的な避難所となります。

5 カモンたかいし・鴨公園整備

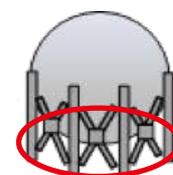


かまどベンチ、マンホールトイレ、非常用発電機などを備えた避難所や物資集配拠点として活用します。

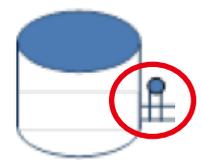
9

臨海部における石油コンビナート区域の災害対策

臨海石油コンビナートでは、府と企業が一体となって、優先度の高いものから順次、防災対策を進めてきました。府の石油コンビナート等防災計画において、対象となる浮屋格式や大きなタンクなどの耐震対策は全て完了しました。また、タンク配管への緊急遮断弁の設置などについても令和元年度末で約 87%が完了しており、その後も順調に対策が進められております。これらの対策によって津波による油類の流出量が大幅に低減されました。



鋼管ブレースの耐震補強



タンク配管への緊急遮断弁の設置